

池田文書の研究（十六）

池田文書研究会

竹内正信の書簡について

一、竹内正信の略歴

正信は、字は玄庵、号は麴園。天保七年七月十五日、越前丸岡藩医でのち西洋医学所取締竹内玄同の男として江戸に生まれる。はじめ父について蘭学を学び、文久二年長崎に赴きボードウインに伝習を受け、のち長崎病院頭取となる。

維新後、東京病院准頭取、明治二年九月大学大助教、明治三年十二月大学少博士となり、少典医として宮内省に勤務。明治四年七月文部少教授、明治五年三月権大待医、明治八年一月五等侍医、明治九年五月四等侍医、明治十年十月三等侍医、明治十六年十一月二等侍医にそれぞれ累進する。明治十九年二月官制改革により侍医に任ぜられる。明治二十七年七月二十日没、年五十九。

（参考文献・侍医寮編『転免物故履歴書』）

二、正信の書簡

正信の書簡は三十八通を数える。書簡の時期は、明治十年代初から正信晩年の明治二十年代後半に及んでいる。この時期は正信の侍医局勤務の時代であり、とくに明治八年十月皇

太后宮御用掛に任ぜられてから、青山御所医局に勤務し、皇太后宮の全国各地への行啓毎に供奉したことを反映して、皇太后宮の容体に関する記事が十二通に見られる。正信の義弟静庵の没時の書簡が一一二四・一八七九の二通、正信の夫人の没時の書簡が一一三七・一一二三の二通あるほか、正信自身の最晩年の様子を伝えたものとみられる書簡が一一三八・三一二四の二通ある。

その他の書簡も大半は患者の病用に関わるものであり、正信と謙斎との交際が侍医局の医師として真摯なものであったことが窺われる。

（速藤 正治）

池田文書——竹内正信書簡一覽

| 書簡番号 | 発信年月日()内推定 | 発信者名 | 受信者名 | 備考 |
|------|--------------------|------|----------|-------------|
| 1 | 1876 明治 年6月18日 | 竹内玄庵 | 池田謙斎 | 追加引籠御届 |
| 2 | 1143 明治 年1月10日 | 竹内正信 | 池田軍医監 | 御暇乞 |
| 3 | 1124 明治(11)年9月14日 | 竹内正信 | 池田二等侍医 | 義弟静庵危篤 |
| 4 | 1879 明治(11)年9月17日 | 正信 | 謙斎先生 | 義弟死去 |
| 5 | 1127 明治(11)年9月17日 | 竹内正信 | 池田二等侍医 | 皇太后宮今朝拝診 |
| 6 | 1122 明治(11)年11月17日 | 正信 | 謙斎先生 | 早蕨典侍カランプ |
| 7 | 1140 明治(12)年5月17日 | 竹内正信 | 池田一等侍医 | 早蕨典侍苦悶 |
| 8 | 1146 明治(14)年1月14日 | 欠 | 欠 | 御番割相定 |
| 9 | 1128 明治(15)年7月9日 | 正信 | 池田一等侍医 | 向ヶ岡村射場行幸 |
| 10 | 1137 明治 年5月29日 | 正信 | 池田先生 | 龍驤之合剂 |
| 11 | 1123 明治 年5月31日 | 竹内正信 | 池田一等侍医 | 荆妻死去 |
| 12 | 1125 明治 年5月30日 | 竹内正信 | 池田一等侍医 | 高階氏より別紙 |
| 13 | 1131 明治 年5月7日 | 竹内正信 | 池田一等侍医 | 皇太后宮拝診 |
| 14 | 1135 明治 年6月15日 | 竹内正信 | 池田一等侍医 | 皇太后宮今朝拝診 |
| 15 | 1129 明治 年6月15日 | 竹内正信 | 池田一等侍医 | 明朝拝診之義 |
| 16 | 1136 明治 年3月7日 | 竹内正信 | 池田一等侍医 | サントニーネ入御散薬 |
| 17 | 1882 明治 年2月27日 | 竹内正信 | 池田一等侍医 | 皇太后宮御順直 |
| 18 | 1883 明治 年2月10日 | 竹内正信 | 池田一等侍医 | 御繰合御出勤 |
| 19 | 1885 明治 年1月21日 | 竹内正信 | 池田一等侍医 | 伊東君伺にてトーフルス |
| 20 | 1888 明治 年6月23日 | 竹内正信 | 池田一等侍医 | 皇太后宮御微痛 |
| 21 | 1886 明治 年1月22日 | 竹内正信 | 池田長官 | 皇太后宮レウマチス痛 |
| 22 | 1126 明治 年12月30日 | 正信 | 謙斎先生 | 娘不快之節御見舞 |
| 23 | 1130 明治 年3月26日 | 竹内正信 | 池田謙斎 | 堤大書記官被申聞 |
| 24 | 1133 明治 年12月26日 | 正信 | 謙斎先生 | 歳暮御祝儀 |
| 25 | 1134 明治 年3月7日 | 正信 | 池田先生 | 若村氏御診察 |
| 26 | 1141 明治 年8月7日 | 竹内正信 | 池田先生 | 一条家より御手紙 |
| 27 | 1142 明治 年9月27日 | 竹内正信 | 池田謙斎 | 一条家御誕生 |
| 28 | 1144 明治 年12月10日 | 竹内正信 | 池田尊台 | 山口侍従 |
| 29 | 1139 明治 年8月1日 | 竹内正信 | 池田局長 | 今橋氏ニ申通 |
| 30 | 1132 明治 年2月25日 | 竹内正信 | 侍医局長池田謙斎 | 皇太后宮御咳嗽 |
| 31 | 1877 明治 年7月15日 | 正信 | 謙斎先生 | 菅山殿慢性腸カタル |
| 32 | 1878 明治 年10月6日 | 正信 | 謙斎先生 | 御参朝相成候哉 |
| 33 | 1880 明治 年6月16日 | 正信 | 謙斎大兄 | 吉村陸軍本病院入院 |
| 34 | 1887 明治 年2月14日 | 正信 | 池田先生 | 千駄ヶ谷たか冒寒 |
| 35 | 1881 明治 年2月20日 | 正信 | 池田先生 | 千駄ヶ谷おたか容体 |
| 36 | 1884 明治 年1月20日 | 竹内正信 | 池田先生 | 橋本家富姫心臓弁膜病 |
| 37 | 1138 明治 年5月9日 | 竹内正信 | 池田局長 | 転地療養之義 |
| 38 | 3124 明治(27)年7月9日 | 竹内正信 | 池田局長 | 当分加養奉願度 |

1 明治 年六月十八日

一八七六 竹内正信 池田謙齋

医処無限困却之至ニ御座候、然は過日拜顔之節、

十八、十九、廿 池田

廿一、廿二、廿三 竹内

右之通伺置候、然処今十九日貴兄ニハ御明番と承知仕候間、

院内為回診小子出張仕候、就而は其後之所

十九、廿、廿一 池田

廿二、廿三、廿四 竹内

右之通ニテ御不都合ニは無之候哉何度候、何卒無之御遠慮思

召次第明朝迄ニ医局江御答一封御差出し置被下候様願度候、

明朝は少々用事有之、いつれニも医局迄是より使之者差出し

候心得ニ御座候、先は右御番割何度如斯奉申上候、勿々以上

六月十八日

池田謙齋様 竹内玄庵

病用

〔遠藤〕

2 明治 年一月十日

一一四三 竹内正信 池田謙齋

新禧奉拜賀候、一寸御年礼且御暇乞と申而参堂可仕心得之処、

彼是多忙今日ニ至り何分不得寸暇、乍心外書中年甫御暇乞申

上候、不遠彼地ニ而拜顔、其節委細可申述候、恐惶頓首

一月十日

竹内正信

池田軍医監様

〔遠藤〕

3 明治(十一)年九月十四日

一一二四 竹内正信 池田謙齋

皇太后午後七時猶又御機嫌奉伺候処、昨夕とは御諸症共御宜

敷御下痢も昨夜之候未夕不被為在候間此段奉申上候

兼而一寸申上候迂生義弟静庵容体、殆ント危篤ニ迫り候ニ付

而は何分明朝拜診之処何卒御繰合御務被下候様奉懇願候、

種々御多忙之御中奉願候も恐入候得共、何分事実難逃事件有

之無抛奉懇願候次第ニ御座候、不悪御承引奉願候、頓首

九月十四日

青山御所ニ而

竹内正信

池田二等侍医殿

〔遠藤〕

4 明治 年九月十七日

一八七九 竹内正信 池田謙齋

霖雨甚以て困却之至ニ御坐候、昨日は態々皇太后宮御容体被

仰下難有拜承仕候、御蔭を以て速ニ御順快、御同様大慶至極

奉存候、就てハ如仰伺之処最早午前一度ツ、と相心得可申候、

且今日明日兩日伺之処儘ニ相心得候、左様御承知可被下候、

乍延刻御請旁如斯御坐候、頓首

九月十七日

正信拜

池田二等待医殿

〔遠藤〕

6 明治(十一)年十一月十七日

謙齋先生

尚々下官義弟死去いたし候ニ付引籠之処深く御配慮被下

難有奉存候、別段忌服も無之且雜事も大略相濟シ候間此

俟にて引籠ハ不仕心得ニ付、岩佐殿は半減之期迄其俟ニ

差置度奉存候、供奉侍医迄皇太后宮御容体申遣候事如何

ニも御尤之義、早々取計可申候也

〔田中〕

5 明治(十一)年九月十七日

一一二七 竹内正信 池田謙齋

皇太后宮今朝拝診之処、益御順快ニ奉伺候、御食後之御悪心

も最早大底御納り被遊、御大便も昨日御軟便ニ而御一行少々

被為在候外、御異状不奉伺御葉ハ前法調猷御置候、右御容体

申上度、如斯候也

九月十七日

尚々御食量は未夕御平常より御減し被遊候也

赤坂御所ニ而

竹内正信

一一二二 竹内正信

池田謙齋

〔封筒表〕

池田二等待医殿

皇居醫局 竹内正信

公用

愈御全福奉賀候、昨朝は青山御所御拝診被成下難有奉存候、

迂生昨夕猶又拝診仕候処、何も為差御異状不奉伺候、御脈搏

は九十動に奉伺候、朝より少々御減被遊候方ニ候、御患部は

不奉伺候得共、濱荻典侍夕刻拝見仕候ニ朝より御色御惣體よ

く御薄く御成り被遊、昨朝共同様奉伺候紅紫色之御部も薄紅

御成り被遊、御周圍更ニ御増し被遊候、御模様は不奉伺趣申

聞候、左候得は炎勢少々御消散之御事ニ奉愚按候、右故昨夕

は御患部は不奉伺、いつれ今朝拝診之節奉伺候積ニ御座候、

且昨朝調猷鮮糖水は御しみ被遊思召ニ不被為叶候ニ付、一度

限り差上申旨濱荻典侍申聞候ニ付、右鮮糖を半匁水一匁之

割ニいたし昨夕猶今一応御試被遊候様押而奉願候、前文之次

第二付今日は午後は非共御操合御拝診被下度此段奉願候也

十一月十七日

正信拜

謙齋先生

尚々、昨日は早蕨典侍カランプ相発し永々御苦勞之由拜承仕候、其以而御氣之毒之至ニ奉存候、昨夜十時前一寸相尋候処、御帰りは静謐の方ニ而大便も昨夜九時過一回有之候趣ニ候、右乍序申上候也

(1) 早蕨典侍カランプ……権典侍柳原愛子。明治八年薰子内親王、明治十年敬仁親王、十二年八月嘉仁親王(大正天皇)を出産、カランプはKrampl(独)瘧瘵のこと。

〔遠藤〕

7 明治(十二)年五月十七日

一一四〇 竹内正信 池田謙斎

益御多祥奉賀候、昨日ハ段々御苦勞奉存候、然ハ早蕨典侍昨夜中先劇発ハ無之候得共、夜中少々ツツ、苦悶有之睡眠ハ少シモ出来不申、今日ニ至リ而も同様不絶胸部ニ苦悶を覺且、時々嘔氣有之時々胆汁を吐シ、薬は總テ不応、殆ント困却仕候、右容體ニ付御都合次第可成ハ一応早日ニ御見舞相成候様仕度候也

五月十七日

池田一等侍醫様

竹内正信

〔遠藤〕

8 明治(十四)年一月十四日

一一四六 竹内正信 池田謙斎

拜啓、昨日は御機嫌能御帰京奉賀候、併存外永々之御滞留相成御苦勞奉推察候、就而は今日ハ三日間御休暇相除キ別紙之通御番割相定候間、御心得迄に及御通達候也

一月十四日

御番割

十七日 謙斎

十八日 正信

十九日 純

廿日 方成

廿一日 盛貞

〔遠藤〕

9 明治(十五)年七月九日

一一二八 竹内正信 池田謙斎

来ル十日午前九時三十(破想) 御出門向ケ岡射の場ニ(破想) 行幸可被仰(破想) 番より供奉相勤候(破想) 貴官ニも例之通り同場ニ於て御交代被下度候、右ハ兼而省方御達しニ相成居候処、今日出番迄御達し無之、出局之上承知仕候仕合ニ候、依而貴官江も御通達之有無難決候間、乍延引為念一応御通知申上候也

七月九日

侍医局当番正信

池田一等侍医殿

(1) 明治天皇が向ヶ岡射の場に行幸し、陸海軍准士官以上の射的競技を観覧したのは明治十五年七月十日。

〔遠藤〕

10 明治 年五月二十九日

一一三七 竹内正信 池田謙齋

(封筒表)

一等侍医様

竹内正信

御親展

愈御清福奉拝賀候、昨日は御多忙之御中御見舞被成下奉萬謝候、御帰後早速龍麝之合劑如御説服用為致候処、其後三時間を經而始メテ尿之通利三ㄨ程有之、其後引統一時間或ハ二時間位ニ尿意相催し其度ニ二ㄨ又ハ二ㄨ半位之尿利有之候、併脉搏ハ御帰後昨夕六時頃迄ハ同断、其後ハ不整之分相復し至而緩ナル脉ニテ候得共、脉搏之時間ハ正シク相成候、依而昨夜中少々ツ、四五回亦葡萄酒相用候処、度数も回復六十七八方七十位之事ニテ且四肢顔面等少々ツ、之瘰癧ハ有之候得共、劇瘻は無之陰部并肛門之疼痛も平穩之方ニテ唯昨夜より安眠ニは無之候得共、頻リニ眠ヲ貧リ輒モスレハウト、相眠り候、是ハ稍々麝香之ため欵とも愚案候、併何も異状ハ無

之候、右容体ニ付今日ハ時々頭部寒菴法を施し脚部ニ脚浴を行ひ内服ハ過日被仰下候ハレリヤナ酸亜銀兼而葡萄酒試候積ニ候、何ぞ御高按有之候ハ、被仰聞被下度候、兎も角昨日御尊診願候節とハ大分快宜之容体不取敢御礼旁右御報奉申上度、餘は拝顔可申述候、頓首

五月廿九日

正信

池田先生

座下

〔遠藤〕

11 明治 年五月三十一日

一一二三 竹内正信 池田謙齋

(封筒表)

池田謙齋様

竹内正信

御手紙啓上仕候、然は荆妻病氣中段々御丹精いたゞき難有仕合奉存候、然ニ今午前一時頃頓ニ眩暈相発し再復不仕、遂ニ死去仕候、何れ拝顔御礼可申上候得共、不取敢右御報奉申上度如斯御座候、忽々頓首

五月卅一日

正信拜

池田一等侍医様

〔遠藤〕

12 明治 年五月三十日

一一二五 竹内正信 池田謙斎

拝啓、高階殿より別紙之通り回答ニ相成候、尤も来月四日は下官当直ニ付、早出仕拝診後引統御番相勤候心得ニ候、夫ニ而何も御差支無之候ハ、高階殿ニは其趣今一応申遣し可申候、為念右御問合迄如期御座候、頓首

五月三十日 侍医当番竹内正信

池田一等侍医殿

〔遠藤〕

13 明治 年五月七日

一一三一 竹内正信 池田謙斎

(封筒表)
池田一等侍医殿 竹内正信

拝啓、皇太后宮拝診御容体書二一寸認置候通り、今日ハ存外御宜敷奉伺候、御外用葉至極能相当被遊候様奉愚按候、安息香脂丁幾は取寄有之候得共、夕刻御出頭御拝診之上御加減之程も難斗奉存候間御葉内外用共御前法調献仕置候、右申上度如斯候也、

五月七日

〔遠藤〕

14 明治 年六月十五日

一一三五 竹内正信 池田謙斎

愈御多祥奉賀候、皇太后宮今朝拝診、御脉六十二三御熱候不奉伺候、昨夕ハ夜ニ懸御咳嗽御頻発、為其御様子も御六ヶ敷程ニ被為在候由、今朝ニ至りてハ御咳嗽余程御間遠ニ被為成候得共、御声音少々御濁り被遊、且御発咳之節御咽喉痛被遊、御食事之御風味御十分ニ無之由、其他御異状不奉存候、依テ今夜又は昨夜之通り御発咳ニ而は御困り被遊候様御案事ニ付、岩佐殿申談シ今夜ハ兼而御調献之ヒヨス丸之御代ニト一フルス白糖各四匁、ラハル末二匁ヲ一包トシ、御格子前ニ御用相成候様奉願且御泡剤中御加入葉トシテ老水一匁吐根舎利別一匁水四匁一日ノ御量トシテ奉願、今日も御仮床ニは不被為成、御平常之御態ニテ被為成候、右御容体ニ付御心得迄ニ申上候也、

六月十五日

池田一等侍医殿

竹内正信

〔遠藤〕

15 明治 年六月十五日

一一二九 竹内正信 池田謙齋

拜啓、各個二度々伺ニ罷出候も恐入候間、明日拜診之義如何
相心得可申或、乍御面御鳥渡御申聞被下度候也

六月十五日

竹内正信

池田一等待医殿

〔遠藤〕

16 明治 年三月七日

一一三六 竹内正信 池田謙齋

(前欠)液ニ而無味之様御沙汰ニ候、御大便も惣計五回之内后
三四ハ青色を帯而粘液之水而已ニ奉伺候、右嘔吐は必ず御便
氣之時而已有之候故、過量之御通利之ため御受感歎と奉伺候、
右之通り嘔吐頻ニ被為在且青色之御便奉伺候ニ付、サントニ
一ネ入之御散葉暫時御免奉願、尋常之鎮吐散(マクネシア六氏、
枸橼酸二氏、右研劑三包一分)調献仕候、右は御治りも御宜敷様
御沙汰ニ候、右書簡之御嘔吐且御通利後は漸々御鎮静被遊、
御氣先も御直り被遊、御葛湯且御粥汁より被召上、是も程よ
く御治り被遊、先唯今(八時)之御模様ニ而は弥御鎮静被遊候
事歎と奉伺候、不取敢右御報知申上度候也

三月七日

午後八時半

尚々、唯今猶又御大便少々膿中之粘液而已ニ候、此度ハ

御便通被為成候而も御嘔氣ハ更ニ不被為在候事本文申上

候通り之御容体、何ぞ御高按も御座候ハ、被仰聞被下置
候、且又明朝ハ善悪共御容体之大略申上候間左様御承知
被下度候也

池田一等待医殿 青山当番竹内正信

〔遠藤〕

17 明治 年二月二十七日

一八八二 竹内正信 池田謙齋

愈御多祥奉賀候、然は皇太后宮引続き御順宜ニは被為在候得
共、御仮床中之事故乍御苦勞明廿八日夕刻五時頃御參診被下
度、此段申上置候也

二月廿七日

青山医局にて
竹内正信

池田一等待医殿

〔田中〕

18 明治 年二月十日

一八八三 竹内正信 池田謙齋

益御多祥奉賀候、然は明十一日少々早目ニ退出奉願度、就て
は御繰合相成候ハ、午後二時頃迄ニ御出勤被下候義相叶間敷
候哉、御許容被下候ハ、千万難有仕合ニ奉存候、御返番之義
ハ来ル十五日次之御番ニ御返勤可仕候間、其節ハ緩々御出勤

被下度候、御都合伺旁右奉願度如斯御坐候、頓首

二月十日

(端裏書)

池田一等侍医様願用 当番竹内正信

(田中)

19 明治 年一月二十一日

一八八五 竹内正信 池田謙斎

(前文次)

御痛之方稍御宜敷旨御沙汰ニ候、昨日伊東君伺にて、トールス四匹ヲハル三匹臨以御頓服ニ内献相成候、御薬今日も何も御前法内献、尤もサルチール酸ソータは丸子ニ六ヶ敷趣ニ付、ソルチール酸ヲ丸トナシ内献仕候、且昨日は御大便三度も御通し被遊候ニ付、撒曹御加入シラハルは除き、トールス加入之方三匹丈其俣内献致シ置候、右御含迄ニ申上置候也

一月廿一日 竹内正信

池田一等侍医殿

(田中)

20 明治 年六月二十三日

一八八八 竹内正信 池田謙斎

日々鬱陶敷困入候、過日来ハ打続御苦勞ニ奉存候、皇太后宮今年前拜診仕候、惣て漸々御願宜ニて被為在候得共三四日来

ハ一日ニ三四回位ツ、少量之御微痛、其節ハ御腹痛も少々被為在候由、尤も不絶少々御腹痛之御気味被為在、御通痢之前後ニハ稍御痛御増し被遊候由、其他御異状不奉伺候、右ニ付ヒヨスエキス之御丸薬ハ御前法奉願、御水薬は左之通り御加減仕内献仕候、

コロンホ粗末 乾姜粗末各二十氏

右浸出メ三弓ノ液ヲトル、后

桂水一弓 メンタ水一弓申

单舎二弓

右一日ノ御量、三次ニ御分服

右御含迄ニ申上置候、頓首

六月廿三日 竹内正信

池田一等侍医殿

(田中)

21 明治 年一月二十二日

一八八六 竹内正信 池田謙斎

益御多祥奉賀候、皇太后宮両三日前より御腰背部少々レウマチス痛之御気味ニ被為入候処、今朝は背部之御痛は宜敷御心下之部ニ移り少々御痛被為在候、右御痛格別之事ニモ不被為入、御平常之通り御仕舞も被遊、御膳も御常之通り、御便通宜敷御熱候等他ニ御異状不奉伺候、来ル三十日は御例祭ニ付、其節御不参不相成様前以て御用心被遊度思召、依テ今朝拜診

被仰付候、右ニ付折角御温保奉願、御葉は左之通り内獻仕置候、右之御容体ニ付御都合を以て御伺奉願候、若シ明日御参賀之節御伺相成候事ニ候へは御随談奉願候、下官明日は少々早目十時迄ニは出局之心得ニ候、右御容体申上度如斯ニ御坐候、拜具

一月廿二日 青山明番 竹内正信

池田長官殿

御方 サルチール酸一、三 ラハル末〇、四〇

右丸三包トス、一日ノ御量毎御食后御苅包ツ、

〔田中〕

22 明治 年十二月三十日

一一二六 竹内正信 池田謙斎

逐日月迫相成候処、愈御清適奉拜賀候、然は先頃娘不快之節は御多忙中早速御見舞被成下奉深謝候、此品輕微之至ニ御座候得共、右奉表寸志度、印迄奉入貴覽候、御笑留被下候ハ、本懐之至ニ奉存候、忽々頓首

十二月卅日

正信拜

謙斎先生

机下

〔遠藤〕

23 明治 年三月二十六日

一一三〇 竹内正信 池田謙斎

御書面拜読、然は御願之義未夕許可無之趣御尋ニ付、早速本省当番江内情問合候処、極メテ御急キ之義と存し候ニ付、過刻太政官書記官迄相尋候得は、未夕内閣より太政官書記官江右御願書相廻り不申趣返答ニ付、猶明朝は速カニ評可相成候様可致、当番堤権大書記官被申聞候ニ付左様御承知被下度、右御答迄如斯御座候、草々不乙

三月廿六日

竹内正信

池田謙斎様

尚々、共保社大隈様御病人之義委細被仰下承知仕候、不乙

〔一〕堤権大書記官……堤正誼。越前福井藩士、天保五年生。

明治四年侍従番長、宮内少丞。明治十年宮内権大書記官、十四年宮内大書記官に進む、男爵。宮内顧問官。大正十年没、年八十八。

〔遠藤〕

24 明治 年十二月二十六日

一一三三

拜啓 追々月迫、嘸々御多忙奉恭察候、年中は種々御懇情戴

き奉深謝候、猶不相替願候、此忝折輕微之至ニ御座候得共、
聊歲暮之御祝儀申上度、印迄ニ奉入貴覽候、御笑留被下候ハ、
本懐之至ニ奉存候、早々頓首

十二月廿六日

正信拜

謙齋先生

座下、

〔遠藤〕

25 明治 年三月七日

一一三四 竹内正信 池田謙齋

兎角鬱陶敷候得共、愈御全福奉拝賀候、然ハ段々若村氏御診
察被下難有奉謝候、いつも留守中不得拝顔矢敬此事ニ候、病
人にも御蔭を以而少々ハ宜敷様相考候、藥劑之処ハ過日御尊
書被下候後、去月廿六日より一昨五日迄キニーネ八ツツ、連
用いたし居候、都合八日間連服為致候、右ニ付昨一日休止忽
而之景況如何を察し度と奉存候事ニ候、就而は昨日御診察被
下候模様ニ而ハキニーネ之処如何之者ニ候哉、或ハ過日御書
面之通キナ皮浸劑ニ嗅素加里ヨード加里を兼用為致候而は如
何之者ニ候哉、病人も今般は病症相発し候前ハ時々レウマチ
ス之遊走痛も有之候処、今般之発病後ハ最早右気味合ハ無之
と申事ニ候、然而てヨードカリも試度と奉存候、右猶一応御
相談申上度如此御座候、餘ハ拝顔縷々可申述候、頓首

三月七日

正信拜

池田先生

〔遠藤〕

26 明治 年八月七日

一一四一 竹内正信 池田謙齋

愈御多祥奉賀候、然は過刻一條家より御手紙、右御手紙中別
紙之通り御丸子可差上と御認め相成候て別紙無之御処分方兼
候、右は一応御問合可申上候得共、左候而ハ先方江対シ少々
不都合且御出先も分兼候仕合、然而は下拙ニ今朝御伺申上御
都合ニてはキニーネ差上候而は如何欤存居候処故、不取扱キ
ニーネ十二氏丸トナシニ包ニ分チ前兩度ニ御用相成候様申上
置候、然而は御申置之御用法等も分り兼候間、貴宮一條家御
見舞後猶又下拙不年拝顔候ニ付、猶御相談仕候而差上候事ニ
候間、左様御承知可相成旨一條家ニは申遣し置候間、左様御
承知可被下候、且又御尊按之御丸子乍序御申聞被下度候、草々
頓首

八月七日

竹内正信

池田先生

〔遠藤〕

27 明治 年九月二十七日

一一四二 竹内正信 池田謙齋

愈御多祥奉賀候、然是一条家御誕生様去ル廿四日より御吐乳有之、下拙ニは昨日參診御吐乳之外兎角御眠勝ニ而大便之通し不宜候位事ニ而、御熱候等他症は不奉伺候、然ルニ昨夕より少々御発熱も有之時々直視上竄之様ナル御模様有之、些少之響音ニも驚愕被遊、全く驚風^{〔一〕}之症候ニ奉伺候、右ニ付下拙者人ニ而は甚心配、且当惑罷在候間、御迷惑とは奉存候得共、何卒御差繰今日中ニ一応御參診被成下度、此段一条家並下拙より奉懇願候、余は拝眉可申述候、頓首

九月廿七日 竹内正信

池田謙齋先生

侍史

尚々、本文之御容体ニ付不時急変は難斗候間今朝御病症驚風之御下地と申上置候、右御答迄ニ申上置候、不一、

(一) 驚風……小兒期のひきつけ、意識不明となる。

〔遠藤〕

28 明治 年十二月十日

一一四四 竹内正信 池田謙齋

昨日は御供奉御苦勞ニ奉存候、然は昨日御交代之節若シヤ御

鞋之御間違は無之哉、山口侍従之鞋見当り不申、別ニ誰人之鞋ニ候哉若足残り有之候、就而は萬一貴官御間違ニは無之哉、一寸奉伺候、頓首

十二月十日

池田尊台 侍医局竹内正信

〔遠藤〕

29 明治 年八月一日

一一三九 竹内正信 池田謙齋

拜啓、酷暑之際ニ候処、愈御清福奉拜賀候、然は今朝停車場ニ於て被仰聞候条、早速今橋氏ニ申通し候、同人事尊意之旨難有奉感謝候、就而ハ今般之事件早々先方と談判之上取消シ之方ニ取斗可仕候間、貴官迄可然申上置具候様申聞候間、左様御承知被下度候、委細は拜顔之節可申述候、恐々頓首

八月一日

竹内正信

池田局長殿

座下

(一) 今橋……今橋重雄、明治二十二年侍医局医員となる。

〔遠藤〕

30 明治 年二月二十五日

一三二 竹内正信 池田謙齋

拜啓、皇太后宮御咳嗽御輕快之方ニ被為在、從テ御咽喉之御エラツキも御宜敷、今日ハ拜診被為免候、御大便昨日御少量御一行、御藥今日迄はトールス御前法奉願置候、右御心得迄ニ申上置候也

二月廿五日 赤坂明番 竹内正信

侍医局長池田謙齋殿

(遠藤)

31 明治 年七月十五日

一八七七 竹内正信 池田謙齋

池田先生御親展 正信拜
(端裏書)

拜啓、御当直御苦勞ニ奉存候、然は青山御所御構内住居菅山殿多年慢性腸カタルニて年々夏期は別て不出来、当年も過日來不出来ニて、最初は嘔吐頻ニ有之、飲食藥汁共更ニ納リ不申、然ルニ右嘔吐鎮靜候処昨今は腹痛下痢、是も為差事ニは無之候得共、暫食氣無之且高老之事故大分衰弱は有之、旁以て青山御所御奥ニても殊之外御案事ニ相成、就ては貴官今日ニも御一診願度旨昨日浜荻典侍方被申聞候ニ付、今日小生拝顔之上兼て之容体も申上且御高診願度心得ニ罷在候処、本日

十二時前より血紛吐瀉未タ相止ミ不申、迎も今日は外出仕兼候間、乍略義右書中奉願候、可相成義候ハ、今日中御尊診願度候、併今日早天ニ下生一診候処、昨午後方昨夜今日ニ掛候ては可也出來も宜敷方御座候、何卒右御含有之上御來診奉願候、早々頓首

七月十五日 正信
謙齋先生左右

二白

当今は日々下生方迄容体申越し候ニ付、服藥も暫之間下生方より遣し呉と之事ニ付、当今は下生宅方遣し置候、一昨日來之処方左之通りニ候、宜敷御指揮奉願候也

方

稀ゴム漿 二勺

圭水 十五銚

メント水 半勺

草舎 半勺

右一日之量四回分服

オピウム半片 甘艸末一仄

右丸十粒トナシニ包に分昼夜一包ツ、右藥之義ニ付御含迄ニ左ニ申上候、藥は勿論他之飲食ニても余程六ヶ敷方、臭ひ高き品味ひ苦きものは總テ納リ不申忽チ嘔吐腹痛と相成候、且又藥之分量も是迄試ミ候ニ殆ント小兒と格別相異無之候、右等之辺宜敷御含奉願候、不乙

(田中)

32 明治 年十月六日

一八七八 竹内正信 池田謙齋

其後は掛違不得拜顔、心外之至二候、扱尊兄ニは今日為御伺御參朝相成候哉否奉何度候、尊兄今日御參朝無之事二候ハ、例之通迂生為御伺參朝可仕心得二御坐候、少々都合も有之候ニ付右奉何度午御草勞貴答奉願候、勿々頓首

十月六日

正信拜

謙齋先生

尚々今日尊兄御出頭御伺被成下候事二候得は、迂生は今日參朝之処御免願度奉存候、右御含置を被下度候也

(田中)

33 明治 年六月十六日

一八八〇 竹内正信 池田謙齋

梅天とは乍申兎角困入候天氣ニ御坐候、然は吉村氏段々長病之義相成、彼是家内之都合有之候ニ付てハ陸軍本病院ニ入院為致候様内談取極候由、就ては其前今一応御診察願度、其節ハ迂生も御同伴仕度奉存候、右ニ付何日何時頃御都合宜敷候哉一寸何度奉存候、右時日被仰下候へは迂生御待申上居候間、其節ハ吉村方へ御出掛拙宅まで一寸御立寄願度奉存候、其節彼是御内話申上度件も有之候間何卒御枉車之段奉願候、且迂

生在宅之処ハ左ニ申上候間是又御承知被下度候、余は拜顔可申上候、頓首

六月十六日

正信

謙齋大兄

明十七日 御都合次第何時にても宜敷、御都合被仰下候

ハ、其刻在宅可仕候

十八日 午前在宅、午後出番

十九日 午後四時頃退出

廿日廿一日

右兩日ハ御都合次第何時にても宜敷候

(田中)

34 明治 年二月十四日

一八八七 竹内正信 池田謙齋

雪天御同様困却之至二候、然は千駄ヶ谷浅川家内女中之長たかと申者、先日來冒寒之由にて寒熱之往來有之候、然ルニ去ル十日夕刻劇敷悪寒熱発、其後肋膜炎之容体ニ有之候、下拙は一昨十三日診察仕其後今日迄療治罷在候、何分老婦ニは有之且先日來種々心配にて大分衰弱いたし居候間、程能分利之処甚懸念仕候、就ては本人は勿論下拙方も是非御一診奉願度、遠路恐入候得共何卒御繰合御來診之程奉願候、一昨日來熱度三十九度以上、尤も昨午前ハサルチール酸ヲ用候故欤暫時間ハ三十七度迄降、惣体景況宜敷候、然ルニ午頃方亦候熱度三

十九度強、今朝は三十八度八分二候、薬用ハ一昨日来不取敢サルチール酸二十氏を一日量トシ相用候、是も最初サルチール酸ソータを四十氏投シ候処、悪心之気味ニテ服用致兼候間、サルチール酸を丸トシ相用候、別ニ発汗利尿促進のためカミルレフリール等之泡剤中ニ「ミンテレリ精」を加シ遣シ置候、右之外外用等も如何ト奉存候へ共、御尊診奉願候事故いつれも御示揮之上ト奉待上候、何卒御一診之上万事御尊按奉同度候、右願迄如斯御坐候、草々頓首

二月十四日

正信拜

池田先生侍史

〔田中〕

35 明治 年二月二十日

一八八一 竹内正信

池田謙斎

愈御清福奉賀候、然は千駄ヶ谷おたか容体左之通り、脈搏百二十前後可也力は有之候、熱度は昼夜共三十七度六分位、食気宜敷、夜事睡眠相応ニ出来申候、精神も追々ハキト致シ惣体之景況は宜敷方ニ候、併胸部之滲出物は依然消散之模様無之、チキタリスは御示之通り昨日迄ニテ六氏ツ、二日間用切申候（最初十二氏ツ、二日）愚按ニは猶兩日間も用度、加之少々増量ニテは如何欤とも奉存候、且チキタリス猶持長候事ニ候得は吐根チキタリス而已ニ可仕哉、又は少量之沃剤加入等は如何之者ニ候哉、右等之辺御指揮奉仰候、猶兩三日中ニは一

応御来診奉願候、先は右容体申上旁処方之処奉同度如斯御坐候、匆々頓首

二月廿日

正信拜

池田先生侍史

〔田中〕

36 明治 年一月二十日

一八八四 竹内正信

池田謙斎

酷寒之節ニ御坐候処愈御壮榮奉賀候、然は先年も御尊診奉願候市ヶ谷橋本家富姫多年心臓弁膜病ニテ時々発作有之、幸是迄ハ格別之変状も無之候へ共弁膜之所患年々増進、過日は可也劇敷発作ニテ、呼吸促迫言語も難成程ニ付、右症は可也鎮静候へ共全て各所ニ浮腫有之、尿モ再三検査候ニ蛋白分糖ニ相見え申候、是も弁膜病之継発と奉存候、重立タル容体右等之事ニ候へ共其他時々寒冒ヒステリー性痙攣等有之、貧血は勿論之事、不日何等之急症相発シ候哉難計甚心痛仕候ニ付橋本家ニも申入、貴官ニ兎も角一応御診察御願相成候様申置候、右次第ニ付何卒御繰合被成下一応御尊診被成下候ハ、小生並病門ニ於て安心之至ニ候、一等医ニも御尊診且御尊按奉希候、猶委細は拜顔可申上候得共不取敢御来診願迄如斯御坐候、恐々頓首

一月廿日

竹内正信

池田先生机下

38 明治（二十七）年七月九日

三一二四 竹内正信 池田謙齋

尚々過日発作之節チキタリスを全用二、五程尽シ程能鎮
静候ニ付、其後此一兩日健胃劑複方キナ丁幾ニハレリ丁
幾を少々加入遣し置候、御尊診之上ハ何卒御尊考（以下
欠）

〔田中〕

37 明治 年五月九日

一一三八 竹内正信 池田謙齋

（封筒裏）

池田局長殿 侍史 差上置

（封筒裏）

竹内正信

謹啓、兎角日々鬱陶敷困却之至ニ候、然は過日一寸申上候、
地療養之義奉願候処、早速御指令相成難有奉謝候、右ニ付明
十日発足之取極メ候間、乍略義書中御含迄ニ奉申上候、猶留
守中共此上宜敷奉願候、勿々頓首

五月九日

竹内正信

池田局長殿

〔遠藤〕

拝呈、酷暑之節ニ候処、弥御清福奉實候、扱過日は蒙御尊訪
候処、近辺運動留守中不得拝顔失敬之段奉謝候、早速為御礼
參上可仕之処引籠申来り御不音打過候、扱下官発疹も御蔭を
以て大分軽快ニ運ひ候ニ付、明日も出勤可仕心得罷在候処、
四五日前より暑氣之為に欬、再発之気味ニ而発疹疥痒共一層
増進仕押ても出勤仕兼候ニ付永引相成恐縮之至ニ候得共、当
分加養奉願度、依テ追加引籠御届差出し申候、右之次第何卒
御含居被下度、乍略義書中奉願候、恐々頓首

七月九日

竹内正信

池田局長殿

閣下

〔遠藤〕